

テップに進めるか否かが判断される。次のステップへ移行する方向となった場合には、開発の進め方、資金計画、官民の役割分担等について事前評価が行われる。その結果、技術実証機の開発を推進すべきと判断された場合、早ければ平成19年度から、新たな措置が講じられることになる。

気象関係に携わる研究者に対しても、これまで幾度か気象学会等で本研究開発に関する発表をしたが、その度に多くの方からこのプラットフォーム実現に向けられる少なからぬ熱い期待を感じてきた。本研究に長年携わった者として、一日も早い実証機開発プロジェクトの新たな立ち上げを期待するところである。

謝 辞

本研究開発においては、京都大学津田教授、九州大学廣岡教授、菊池元気象庁長官を始め、気象庁数値予報課、その他本プロジェクト気象環境検討委員会の委

員の方々には格別なる御指導を賜りました。この場を借りて感謝の意を申し上げます。

また、共同研究先の JAXA を始め、現地実験場大樹町関係者の方々にはお世話になりました。改めてお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 是永真理子, 及川博史, 田保則夫, 佐藤祐子, 和田将一, 堀込淳一, 菊池幸雄, 福田寿, 谷川亮一, 早崎宣之, 2000: 成層圏プラットフォーム風予測モデルの研究開発, 日本気象学会秋季大会予稿集, C311, 202.
- 文部科学省, 総務省, 2004: 成層圏プラットフォームパンフレット, 1-14.
- Mukougawa, H. and T. Hirooka, 2004: Predictability of stratospheric sudden warming: A case study of for 1998/99 winter, Mon. Wea. Rev., 132, 1764-1776.
- 宇宙航空研究開発機構, 2004, 成層圏滞空飛行試験成果報告書 (飛行試験システムの開発), 6pp.



ウインター・サイエンスキャンプ参加者募集

様々な最先端の研究成果や研究施設・実験装置等を有する大学・公的研究機関・民間企業(15会場)が、冬休みの3~4日間高校生を受け入れ、ライフサイエンス、情報・通信、ナノテクノロジー・材料、電気・電子、環境・エネルギー、地球科学、ロボット工学等の分野において、第一線で活躍する研究者・技術者を講師として本格的な実験・実習を行う科学技術体験合宿プログラム。今回は、冬の北海道で、雪や氷のことを知るとともに、南極の氷から地球環境変動までを考える『雪と氷の世界を体験しよう~雪結晶から地球環境まで~』(北見工業大学工学部: 1/6-8)や、都市環境を支える緑の機能と役割を、温室効果ガスや、都市気象の変動と樹木の成長、衛生リモートセンシングなどで体験する『解明しよう! 緑と都市環境のメカニズム』(大阪府立大学生命環境科学部: 12/26-28)、深海底で掘削された堆積物の柱状試料(コア)の分析を通し地

球の環境変動を学ぶコースと、微生物や遺伝子を、生物学的観察と遺伝子の分子生物学的解析するコース2つを行う『科学の力で地球の未来を探る~遺伝子資源と地球環境』(高知大学海洋コア総合研究センター・遺伝子実験施設: 12/23-25)他のプログラムが行われる。募集要項、申込書は、事務局に請求するか、WEBサイトでも入手できる。

参加費: 8,000円

(自宅~会場間の交通費は参加者負担)

応募締め切り: 11月16日(水)必着

応募方法: 参加申込書を事務局宛に送付

主催: 文部科学省

問合せ先: サイエンスキャンプ事務局

(日本科学技術振興財団振興部内)

Tel: 03-3212-2454, Fax: 03-3212-0014

<http://ppd.jsf.or.jp/camp/>